

青木 康浩 教授

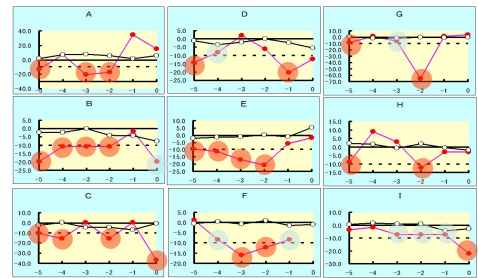
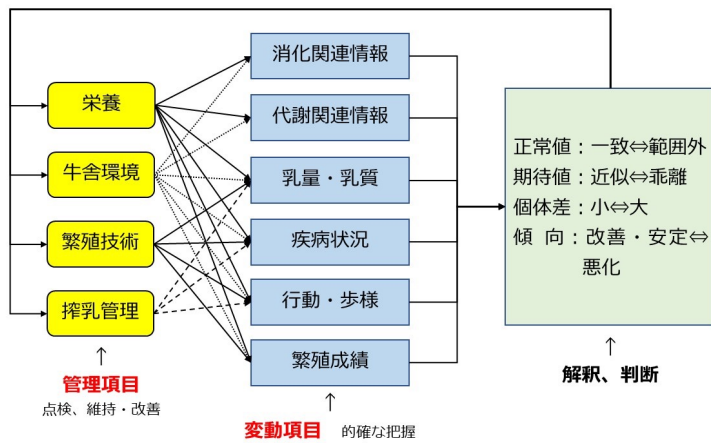
## 研究概要

畜産農家では、労働力不足の中で1戸当たり飼養頭数が増加してます。1頭1頭に目の行き届きにくい飼養環境の中で、モノいわない家畜の健康状態を的確に把握することが一層重要になっています。そこで、スマート技術による家畜の健康モニタリング手法の確立を目指して研究に取り組んでいます。例えば、毎日の仕事である搾乳は、乳牛からさまざまな生体情報を収集する絶好の機会です。搾乳時に得られる搾乳速度などのデータから乳牛の健康状態を読み解くことを目指しています。また、排泄された糞の性状と家畜の代謝プロファイル(血液検査)との関係を解析して、栄養生理状態、飼養管理の適否を糞に基づいて非侵襲的に判断する手法の確立にも取り組んでいます。生産性と健全性の両立をキーワードとして、家畜飼養学・管理学・生理学・草地利用学などの知見をベースに、良質な畜産食品を提供する生産者、関連業界をバックアップしていきたいと思ます。

## 主要研究テーマ

1. 乳牛の健康モニタリング手法の開発
2. スマート畜産技術の適用と導入効果の技術的評価
3. 自給飼料生産・利用(放牧を含む)による大家畜の生産性、健全性の評価

搾乳牛を対象とする健康モニタリングの流れ図



乳房炎発症前の乳汁流出速度の変動(9例)

